



栗田工業株式会社

2025年3月期 第3四半期
決算説明会

(証券コード : 6370)

2025年 2月 7日

執行役常務 経営管理本部長兼CF0の城出秀司です。

2025年3月期第3四半期決算について説明します。

業績概況



- 前年同期比では、主に半導体市況や為替変動を背景に、受注高、売上高、事業利益ともに増加。
- 通期予想に対して、受注高、売上高、事業利益ともに着実に進捗しており、業績予想は前回発表のとおり据え置く。

(単位：億円)			2024/3期 3Q累計実績	2025/3期 3Q累計実績	前年同期比	2025/3期 通期予想 (11/7発表)	前期比
受	注	高	2,816	3,125	+ 11.0%	4,250	+ 8.9%
売	上	高	2,867	3,008	+ 4.9%	4,100	+ 6.5%
事	業	利 益	305	353	+ 15.9%	500	+ 18.9%
そ の 他 の 収 支			+ 1	△ 6	－	△ 3	－
営 業 利 益			305	347	+ 13.7%	497	+ 20.5%
税 引 前 四 半 期 利 益			305	347	+ 13.9%	490	+ 17.5%
親会社の所有者に帰属する四半期利益			219	242	+ 10.6%	345	+ 18.2%
基本的1株当たり四半期利益（円）			194.89	215.55	+ 10.6%	306.81	+ 18.2%
為替 レートの影響	USD（円）		143.3	152.6		152.6	
	EUR（円）		155.3	164.8		166.0	
	CNY（円）		20.0	21.2		21.2	

● 前期の第2四半期からアルカデ・エンジニアリング社を新規連結（一般水処理セグメントで計上）。

業績概況

当期は、円安にともなう為替影響が、押し上げ要素となりました。
為替影響を除いても、受注高・売上高ともに増加し、事業利益も増益となっています。

なお、11月に発表した通期予想に対して、着実に進捗していることから、業績
予想は据え置いています。

セグメント別業績



(単位：億円)		2024/3期 3Q累計実績	2025/3期 3Q累計実績	前年同期比	2025/3期 通期予想 (11/7発表)
全社	受注高	2,816	3,125	+ 309	4,250
	売上高	2,867	3,008	+ 142	4,100
	事業利益	305	353	+ 48	500
	事業利益率	10.6%	11.7%	+ 1.1pp	12.2%
	営業利益	305	347	+ 42	497
電子	受注高	1,254	1,456	+ 202	1,950
	売上高	1,314	1,358	+ 44	1,790
	事業利益	149	193	+ 44	240
	事業利益率	11.3%	14.2%	+ 2.9pp	13.4%
	営業利益	151	195	+ 44	233
一般水処理	受注高	1,562	1,670	+ 108	2,300
	売上高	1,553	1,650	+ 98	2,310
	事業利益	155	159	+ 4	260
	事業利益率	10.0%	9.7%	△ 0.3pp	11.3%
	営業利益	155	152	△ 2	264

電子

- 受注高は、主に装置や継続契約型サービスで増加。
- 売上高は、装置は減収も、継続契約型サービス、精密洗浄が増加し増収。
- 事業利益は、増収効果とサービス事業の売上高構成比の向上による原価率改善が、販管費増の影響を上回り増益。

一般水処理

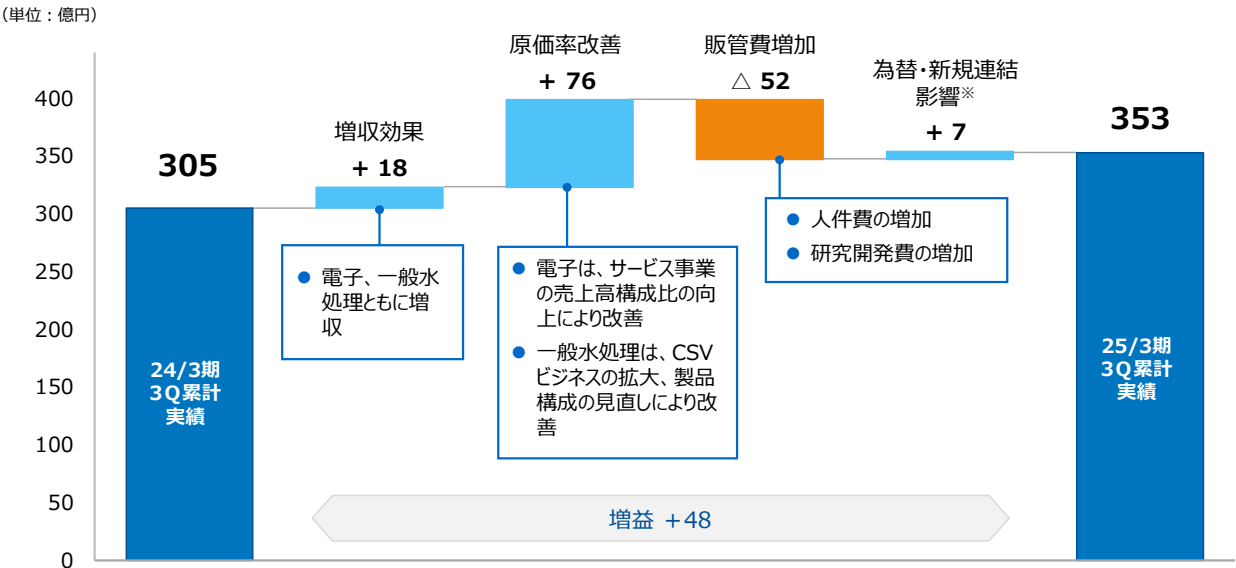
- 受注高、売上高は、新規連結影響、為替影響に加え、装置の伸長により増加。
- 事業利益は、増収効果に加え、CSVビジネスの拡大や製品構成の見直し等による原価率改善の効果が、販管費増の影響を上回り増益。

セグメント別業績

両セグメントとも、為替と新規連結の影響を除いたオーガニックで前年同期比、増収、増益となっています。

通期予想に対しては、電子セグメントは、半導体のお客様における工場稼働の回復や投資拡大を背景に、高い進捗率で推移しています。
一般水処理セグメントは、想定ほど薬品事業が伸びず、進捗はスローです。

事業利益の増減要因（前年同期比）



※ 新規連結影響は、前期の第2四半期からアルカデ・エンジニアリング社を新規連結したことによるもの。

事業利益の増減要因（前年同期比）

為替および新規連結影響を除いたオーガニックでは、41億円の増益です。

電子、一般ともに増収となったほか、原価率も改善しました。
原価率の改善は、電子は、継続契約型サービスの拡大等により収益性の高いサービス事業の売上高の比率が高まったことによるものです。
一般水処理は、利益率の高いCSVビジネスの拡大や、薬品において低採算な製品・サービスを見直したことに伴うミックスの改善によるものです。
販管費は、人件費の増加に加え、イノベーションやDXの推進に伴う費用が増加しました。

(単位：億円)	2024/3期 3Q累計実績	2025/3期 3Q累計実績	前年同期比	2025/3期 通期予想 (11/7発表)
受注高	1,254	1,456	+ 202	1,950
装置	491	588	+ 97	788
継続契約型サービス	346	402	+ 56	541
サービス	417	466	+ 48	621
薬品	78	91	+ 13	118
精密洗浄	184	218	+ 34	287
メンテナンス	155	157	+ 2	216
売上高	1,314	1,358	+ 44	1,790
装置	548	495	△ 53	647
継続契約型サービス	346	403	+ 57	538
サービス	420	460	+ 40	605
薬品	78	90	+ 12	118
精密洗浄	184	217	+ 33	281
メンテナンス	158	152	△ 6	206

- 装置の受注高は、中国および韓国で増加。売上高は、中国で増加も、前年同期の国内大型案件の売上計上の反動で減収。
- 継続契約型サービスは、今期からサービスを開始した案件寄与に加え、一過性の収益計上もあり、受注高、売上高ともに増加。
- 精密洗浄事業は、為替影響を除いても受注高、売上高ともに増加。
- メンテナンスの受注高・売上高は、案件のタイミングによる増減はあるものの概ね想定線で推移。

売上高増減要因 (億円)	
オーガニック増減	+ 11
為替影響	+ 33

電子セグメントの受注高・売上高

装置の受注高は、中国、韓国での旺盛な半導体投資を背景に増加しました。
売上高は、主に中国における工事進捗で海外が増加しましたが、日本において前年同期に計上された大型案件の剥落が影響し減収です。

継続契約型サービスは、2件の水供給サービスが第1四半期と第2四半期からスタートしているほか、一部案件で一過性の収益計上もあり、増収となっています。

精密洗浄事業は、国内で回復が見られました。
海外は、為替影響を除いても前期比で増加していますが、お客様工場の稼働影響を受ける洗浄ニーズは、本格的な回復までは至っておらず、増加は緩やかです。

一般水処理セグメント



(単位：億円)	2024/3期 3Q累計実績	2025/3期 3Q累計実績	前年同期比	2025/3期 通期予想 (11/7発表)
受注高	1,562	1,670	+ 108	2,300
装置	207	257	+ 50	427
継続契約型サービス	66	73	+ 8	121
サービス	1,289	1,339	+ 50	1,751
薬品	872	894	+ 22	1,190
メンテナンス	348	373	+ 25	473
その他	69	72	+ 3	88
売上高	1,553	1,650	+ 98	2,310
装置	199	248	+ 48	419
継続契約型サービス	76	83	+ 6	121
サービス	1,277	1,320	+ 43	1,769
薬品	873	892	+ 20	1,207
メンテナンス	335	360	+ 25	480
その他	70	68	△ 2	83

- 装置は、受注高が新規連結影響に加え、主に日本における案件獲得により増加。売上高は、北米における官需向け装置案件の工事進捗により主に海外で増加。
- 継続契約型サービスは、CSVビジネスの拡大により増収。
- 薬品は、為替影響を除くと、受注高、売上高ともに海外で減少も、CSVビジネスは増加。
- メンテナンスの受注高、売上高は、主に日本で増加。

売上高増減要因 (億円)	
オーガニック増減	+ 42
為替影響	+ 43
新規連結影響	+ 13

一般水処理セグメントの受注高・売上高

装置の受注高は、新規連結の影響に加え、主に日本で増加し、売上高は、北米における官需向け装置案件の工事進捗により、主に海外で増加しました。

なお、北米の半導体大型案件の契約については、ほぼ合意しており、契約締結まであと一步の段階にある状況です。

継続契約型サービスは、引き続き伸長していますが、薬品は、為替影響を除くと減収となっています。
主な要因としては、欧州で景気低迷の影響を受けているためです。

地域別売上高・CSVビジネス売上高



地域別売上高（全社連結）

（単位：億円）	2024/3期 3Q累計実績	2025/3期 3Q累計実績	前年同期比	2025/3期 通期予想 （11/7発表）
日本	1,474	1,436	△ 38	1,905
アジア	650	755	+ 105	1,005
北南米	464	526	+ 62	780
EMEA *	278	291	+ 13	409
合計	2,867	3,008	+ 142	4,100

地域別売上高（一般水処理セグメント）

（単位：億円）	2024/3期 3Q累計実績	2025/3期 3Q累計実績	前年同期比	2025/3期 通期予想 （11/7発表）
日本	773	815	+ 42	1,092
アジア	167	170	+ 3	234
北南米	342	381	+ 39	584
EMEA	271	284	+ 14	400
合計	1,553	1,650	+ 98	2,310

地域別売上高（電子セグメント）

（単位：億円）	2024/3期 3Q累計実績	2025/3期 3Q累計実績	前年同期比	2025/3期 通期予想 （11/7発表）
日本	701	621	△ 81	813
アジア	483	585	+ 102	772
北南米	122	145	+ 23	196
EMEA *	8	7	△ 1	9
合計	1,314	1,358	+ 44	1,790

CSVビジネス売上高

（単位：億円）	2024/3期 3Q累計実績	2025/3期 3Q累計実績	前年同期比	2025/3期 通期予想 （11/7発表）
全社連結	298	367	+ 69	480
電子	92	110	+ 18	135
一般水処理	205	256	+ 51	345

* 2025年3月期から、従来北南米に含まれていた精密洗浄事業のEMEA拠点での売上高実績を、EMEAの売上高として計上

地域別売上高・CSVビジネス売上高

CSVビジネスは、引き続き拡大に向けた各種取り組みを進めており、売上高は堅調に推移しています。

設備投資額・減価償却費・研究開発費



(単位：億円)	2024/3期 3Q累計実績	2025/3期 3Q累計実績	前年同期比	2025/3期 通期予想 (11/7発表)
設備投資額（有形*）	248	378	+ 130	464
減価償却費（有形*）	210	227	+ 17	315
研究開発費	54	61	+ 7	75

* 使用権資産含む。

- 設備投資額は、水供給事業、精密洗浄事業における設備投資の増加により、前年同期比で増加。
- 減価償却費は、新しい水供給案件の開始等に伴い前年同期比で増加。
- 研究開発費は、イノベーション創出に向けた取り組み強化により増加。

設備投資額・減価償却費・研究開発費

来期以降のサービス開始を予定している水供給案件や精密洗浄事業における洗浄拠点の新設により、設備投資額は前年同期を大きく上回っています。

財政状態



(単位：億円)	2024年3月末	2024年12月末	増減
現金及び現金同等物	540	612	+ 72
営業債権及びその他債権	1,395	1,273	△ 122
棚卸資産	211	229	+ 18
その他流動資産	135	113	△ 22
流動資産合計	2,280	2,226	△ 54
有形固定資産	1,910	2,058	+ 149
のれん	710	730	+ 20
その他非流動資産	674	667	△ 7
非流動資産合計	3,294	3,456	+ 162
資産合計	5,574	5,682	+ 108
流動負債	1,186	1,353	+ 167
非流動負債	1,054	809	△ 245
負債合計	2,240	2,162	△ 78
親会社の所有者に帰属する持分	3,313	3,495	+ 182
非支配持分	22	25	+ 4
資本合計	3,334	3,520	+ 186
負債及び資本合計	5,574	5,682	+ 108

- 流動資産合計の減少は、主に契約資産の減少。
- 有形固定資産は主に水供給サービス用設備の取得、精密洗浄用工場建設により増加。
- のれんの増加は、為替影響。
- 負債合計は、CP償還により減少。なお、償還期限が近づいた社債を、非流動負債から流動負債へ振り替え。
- 資本合計の増加は、利益剰余金の増加。

財政状態

財政状態は、スライドのとおりです。

本日の説明は、以上です。



将来見通しに関する注記事項

本資料に掲載されている見通し数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

本資料内で使用している製品・サービス名およびロゴは、当社または他社の商標または登録商標です。